エコトピア山田再整備事業　全体配置計画 ≪基本設計≫

⑦現処分場の廃止後の安全対策

【キャッピング】

北側残置廃棄物及び西側残置廃棄物には安全性を考慮して、シート工法によるキャッピングを行う。

【既存廃棄物観測井戸】

現処分場西側に観測用井戸を設置

③環境監視（モニタリング）施設【地下水モニタリング計画】

既存観測井によりエコトピア山田全体の地下水を把握するとともに、新処分場の周り４か所に観測井を新設して、新処分場の影響を確認する。

●：現処分場モニタリング井戸

●：新処分場モニタリング井戸

④管理棟
⑤ストックヤード

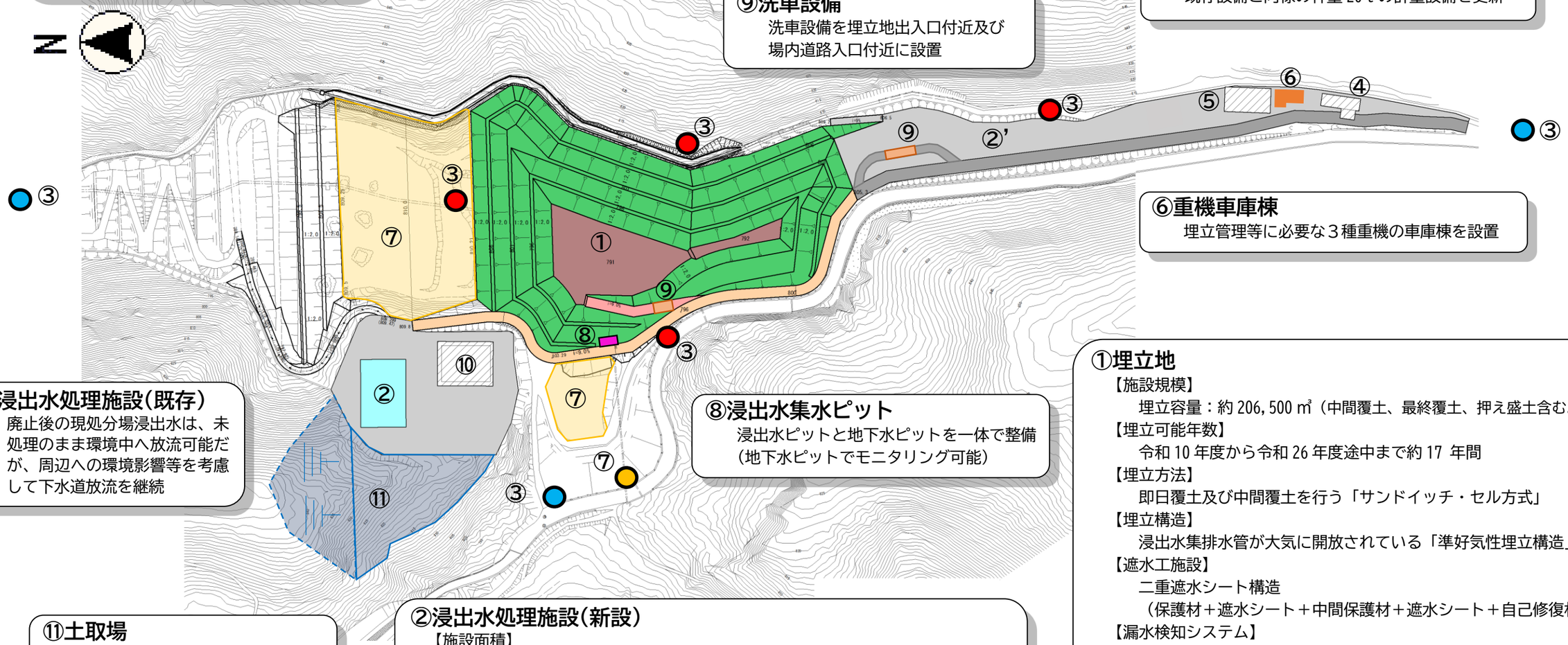
現処分場の管理棟等を改修し継続使用

④トラックスケール

既存設備と同様の秤量 20ｔの計量設備を更新

⑨洗車設備

洗車設備を埋立地出入口付近及び場内道路入口付近に設置



⑥重機車庫棟

埋立管理等に必要な３種重機の車庫棟を設置

⑩浸出水処理施設（既存）

廃止後の現処分場浸出水は、未処理のまま環境中へ放流可能だが、周辺への環境影響等を考慮して下水道放流を継続

⑧浸出水集水ピット

浸出水ピットと地下水ピットを一体で整備（地下水ピットでモニタリング可能）

①埋立地

【施設規模】

埋立容量：約 206,500 ㎥（中間覆土、最終覆土、押え盛土含む。）

【埋立可能年数】

令和 10 年度から令和 26 年度途中まで約 17 年間

【埋立方法】

即日覆土及び中間覆土を行う「サンドイッチ・セル方式」

【埋立構造】

浸出水集排水管が大気に開放されている「準好気性埋立構造」

【遮水工施設】

二重遮水シート構造

（保護材＋遮水シート＋中間保護材＋遮水シート＋自己修復材）

【漏水検知システム】

電気的漏水検知システム（埋立地全体を検知範囲とする。）

⑪土取場

生活環境への影響を低減するため、建設工事の盛土材を現地採取

②浸出水処理施設（新設）

【施設面積】

約 1,300 ㎡（建屋及び屋外浸出水調整槽面積含む。）

【新処分場水処理方式】

カルシウム除去設備　（炭酸ナトリウム添加によるアルカリ凝集沈殿処法）

物理化学処理設備（砂ろ過法）

【汚泥処理方式】

重力濃縮＋脱水処理

【新処分場上流部の As 舗装】

舗装面積：約 12,500 ㎡　　浸出係数：0.15